

# たのしい たのしい 船穂校♪

倉敷市立船穂小学校 横山文朗

## 山の学習

来週の月曜日、火曜日に山の学習を計画している。このところ雨の日が多いので、天候はどうだろうかと気になっている。山の学習は何度も引率しているけれども、その度に思い出に残っていて、今年はどうかなと楽しみにしている。

15年ほど前に勤務していた小学校では、5年生が2泊3日の山の学習を国立吉備少年自然の家で行っていた。「自分たちの力でやりとげる山の学習」がテーマで、基本的な説明や準備は教員がするが、活動が始まると一切手助けはしないという約束になっていた。

野外炊事も野菜を切るところから煮たきまで子どもたちだけです。いくら火がつかなくても手伝ってはならない。自分も担当の班のカレーを食べるものだからがまんできなくて手伝おうとした先生は、皆から手厳しい指導を受ける。最初は互いの文句ばかり言い合っていた子どもたちも、他のグループのカレーが煮え、食べ始めるグループが出てくるとあわて始める。皆が食器の片付けをしているころになりようやく食べ始める班もいる。芯のあるご飯とジャガイモとニンジン。いくらおいしくなくても食べなければその日の夕食はない。子どもたちは「固い!」「おいしくない!」と言いながら食べる。

翌日は、朝食を作る。昨夜失敗した班も手際よく調理をしている。うまくいかない班の多くは、失敗を友だちのせいにして自分で何とかしようとしなない。子どもたちは昨夜とはうってかわって声をかけあい助け合おうとする。

朝食後は食堂で作ってもらったお弁当を持ってウォークラリーをする。各班には教員か保護者ボランティアが安全確保のために一人ずつつく。でも、いくら道に迷っても声をかけてはいけない約束だ。どうしてもこれ以上は無理だと思った時はトランシーバーで本部に連絡する。「コースを大きく外れて牧場の中を歩いています。止めて正しいコースに戻してもいいでしょうか?どうぞ~!」「いえいえ、もう少し頑張りましょう!県道まで出たら止めてください。どうぞ~」「了解」といった具合。

わたしも鳴滝に下る道を二往復半させられたことがある。「鳴滝へ道を上がろうとしています。二度目のミスコースです。止めてもいいでしょうか?どうぞ~!」「ご苦労様です。もう一往復はがまんしましょう。どうぞ~」「了解」といった具合。三日目となると引率の教員や保護者は疲労困憊の様子だけれど、子どもたちは、班の結束が強くなり活動も楽しくこなすようになる。

学校によっては、説明を聴くときなぜかいつも四角く整然と並んで、教員の指示のままに活動している様子を見ることがある。少しでも指示どおりに動けないと厳しく叱責している。

「集団行動」という言葉を勘違いしているのではないか。体育の時間や運動会の時のように号令に従うことが、野外体験の「集団行動」ではなからうにと思う。

仲間の都合や思いを大事にし、心を通わせて活動することが、野外体験の「集団行動」だと思う。失敗しても、じっと見守り待つことが大切だ。失敗を振り返ることで、子どもたちは協力することの意味や大切さを実感をもって知るのだと思う。

有意義で学びのある山の学習になるといいなと思っている。